

令和元年度岡山県立記録資料館運営協議会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和元年10月16日（水） 10：00～12：00
- 2 場 所 岡山県立記録資料館 研修室
- 3 出席者
（委 員） 奥田哲也、沢山美果子、清水玲子、築島尚、服部真理（敬称略、50音順）
（事務局） 岡山県立記録資料館 定兼学館長他
- 4 傍聴者 なし
- 5 開会あいさつ 館長
- 6 職員紹介
- 7 議 題
 - (1) 平成30年度事業報告について 資料：平成30年度記録資料館年報
 - (2) 令和元年度事業の現況等について 資料：令和元年度事業の現況等
 - (3) 令和2年度事業計画（案）について 資料：令和2年度事業計画(案)
 - (4) その他
- 8 議 事 委員長により議事進行
 - (1)「平成30年度事業報告」について**
（事務局から説明）

（委 員） きろくる岡山ゼミナールでは夜間の開催もしているが、普段、土日
に開くより夜間は多いのか。

（事務局） どちらともいえないが、比較的少ない。夜間は金曜日の開催で、勤
労者向けを考えた。宣伝とタイトリングによって、人数の多少に影響
がある。

（委 員） いつ設定すればいいのか難しいと思うが。参加者の構成に違いがあ
るのか。普段と違う人が来たとか。

（事務局） やはり、休日とは違う人が散見される。今、私（館長）が夜間をし
ており、講座ネタに限りがあるが、向学意欲ある勤労者も来られてい

る。

(委員) 昨年の豪雨災害対応は、ここに書かれている内容で、一応終了したのか。

(事務局) 一応終了した。

これは、真備図書館の公文書で水損資料を乾燥させ、きれいにして納めて終わった。

(委員) 水損ということで、東日本とは違った処理が必要だったのか。

(事務局) 基本的には一緒だが、夏場で腐敗が激しかった。岡山史料ネットという民間資料を救出する人々がいたり、写真を復元させたいと努力した人々もいたり、いろいろな資料救出の方法があった。

当館の事業としては公文書を対象とした。公文書は、セキュリティの関係で機密情報もあるので、お役に立ったと思っている。

倉敷市は、自分たちだけで処理された。当館の職員もノウハウを持っているので、サポートに行った。

(委員) レスキュー・防災研修会の講演に行っているが、埼玉から要請があったのか。

(事務局) 埼玉県から西日本のことを聞きたいと言われ、岡山の話をした。

(2)「令和元年度事業の現況」について

(事務局から説明)

(委員) 展示コーナーの閲覧者の数はどうやって数えているのか。

(事務局) 一階受付のところで見ている。

(委員) 平成30年度に比べ公文書を大規模に収集しているが、記録資料館の書庫はどれくらい収蔵できるのか。目安があれば教えてほしい。

(事務局) 設計では、40万点収蔵できるようにしている。現在30万点ほどになっているので、80パーセント程度埋まっていることになる。今年度は特別に永年保存の年限見直しがあり、本来なら現用として原課が持つ永年文書が廃棄になったので、ここまで持っていたものは残しておこうという思いがあり、収集している。収蔵スペース確保は喫緊の問題となりつつある。

(委員) 収集して、整理して一杯になり、収集できなくなるとは大変だ。

この問題は、お金もかかるが重要な問題なので、財政当局によく説明し、場所を確保し、安心して収集できるよう努力してほしい。

普段の館内事業をしながら真備の水損資料の処理もして、職員が大変だったと思うが、働き方でどのようなことに注意して運営してきた

のか。また、運営していくのか。人手不足もあると思うが。

(事務局) 目に見える仕事はとにかくやる。目に見えない地道な仕事こそが重要だが、残念ながら手が薄くなる。さらに、表立ったイベントをそぎ落とすこともやっている。例えば、展示ケースを減らすなど、仕事量がオーバーにならないようにしている。また、仕事配分を考え、個人に集中しないようにして、事務量の均一化をしている。今後どうしていくかは難しいところがある。

(委員) PFIの運営が予定されているのか。

(事務局) これまで、PFI事業で、建物の維持管理を事業者に残している。次年度以降は、指定管理者に引き継がれる。

(委員) 周辺のなところを指定管理にするのか。

(事務局) 施設の維持管理を指定管理にする。

(委員) 10月12日に開催された企画展調査報告会に出席した。

個々の内容は面白く、有意義で、個々の職員が時間をかけて企画を練っているのがよくわかった。

展示自体は重要だが、企画した人が説明する機会に話を聞くと資料の意味が鮮明になる。せっかくの展示資料なので、それに関係した地域などで、出張の解説会をしてはどうか。展示品を持っていくのは技術的な問題もあり難しいかもしれないが、そういったことを企画し、それを広げてはどうか。人手不足で難しいとは思いますが、そういった企画があると、県の中心部だけでなく隅々の方まで恩恵にあずかれるのではないか。

また、その企画で何を表したいのか、その意義を前面に出してはどうか。バスの展示で、岡山県内の人力車が減ってバスが増えるような表があるが、別の観点で、全国の流れの中で岡山県の流れはどうなのかなど、全国との対比をすると分かりやすいのではないか。そうすると、見る人が興味を持つのではないか。職員は資料に接して一番よくわかっていると思うが、外部の専門の人にヒントを貰うのもいいのではないか。そういった感想を持った。

(事務局) ご意見に感謝する。委員のような見方をしてもらえる展示になったのではないかと思う。

展示になるまでのプロセスを少し説明すると、数人の担当がモチーフを持って資料収集をし、周辺に広げてみんなのアドバイスを受ける。館長協議を3回は行い、メッセージは何か、こうしてはどうかなど意見交換の協議をする。館の展示は、アーカイブズの存在を示すだけでもいいが、展示する以上は、この1点で何かを語れるようにしようと

している。公文書もあり地域資料を含む古文書もある。自ら取材した資料もある。このようなかたちで、日常の展示をしている。

企画展では、他館にある、当館にない資料を借り受けてするので、借り受け先で出張講演会などを行っている。図書館等の関連機関等ともタッグを組んで、展示をしている。

(委員長) 今の意見は貴重で、1つは、館全体で取り組むとしても、担当した人の解説会をすること。もう1つは、講座と企画展などを連動させて、それに関係した講座を設け、担当者に話をしてもらおうということだが。

(事務局) 展示解説は、これまでの経験から、展示解説だけでは人が来ないので、何かの講座で人が集まった時にするようにしている。また、いろんなイベントとリンクして、展示をした者が紀要に書くなど関係づけるようにしたい。1つの成果に終わらせないようにする。

(委員) 古文書の収集で、価格がどれくらいか、予算の都合で我慢したのか、全部買えたのか。もっと広く収集したかったが、これだけにとどまったのか。

(事務局) 日常の関係者との付き合いの中で古書店などの情報を広く収集するようにしている。

価格が適正かどうかは、日頃からチェックをし、職員が積算をしている。そこから購入候補を協議をして絞っている。値段交渉をして諦めることもある。予算が限られているので購入できないこともある。

1点ごとの購入もあるが、群として売りに出ている物が重要で、それは、段ボール箱でまとめて買っている。配布資料には22件としているが、その数件は段ボール箱数である。

(委員) 古文書解説講座で、抽選で参加できない人がおられるが、毎年こんなのか。

(事務局) これまでの委員会でも全員出られるように何とかするようと言われていたが、今回は部屋の関係でどうにもならなかった。それで、急遽特別講座を設けることで案内をし、選から漏れた人の救済を図った。

(委員) 特別講座は今回初めてなのか。

(事務局) 初めてのことだ。本来、予定していなかったが、これではいけないと思い、急遽開催した。

(委員) 参加者は喜んだか。

(事務局) 満足いただけた。

(委員) アンケートで、年齢性別の記入があり、80歳代も結構いる。古文書を解説してみようという県民が支えてくれる。今後も力を入れてほしい。

- (委員) どういった目的で参加しているのか。こういった人がボランティアとかになるのか。
- (事務局) 日頃、博物館や美術館での展示資料を自分が読めなくて悔しいから読めるようになりたいとか、我が家に古文書があるとか、祖父母の手紙が読めないで、それを読みたいという思いの人もいる。古文書がそばにあるのに読めない人や、読めることで世界を広げたいという大変熱心な人たちだ。
- 古文書解読講座の受講者のなかから、ボランティアや同好会に入っている。
- 当館の同好会は、紀要などに解読したものを印刷物にして出していて、その活動が評価されて昨年度は岡山市文化奨励賞を受賞した。
- (委員) 募集人数が60人程度となっているが、きらめきプラザの会議室でほかの部屋ではできないのか。
- (事務局) 今年は、部屋が取れなかった。きらめきプラザは半年前の月初めに使用の応募をするため、取れないことがあり、それで困った。大きい部屋もあるが、シリーズで開催日を決めているため連続で部屋をおさえるのはなかなか難しい。
- (委員) 県として優先されないのか。
- (事務局) 使用料は免除されているが、優先枠はない。
- (委員) 今後も、抽選に外れる人が出てくるとも考えられ、今回の特別講座を来年もするのかは、また検討してほしい。

(3)「令和2年度事業計画(案)」について

(事務局から説明)

- (委員) 公文書の内容審査はどうするのか。
- (事務局) 全面的公開と部分公開と要審査に分けており、公開請求があった時に内容を審査する。
- 内容の審査は、当館の公開基準に照らして、資料を読み込んでしている。とりあえず、ざっと、項目だけを見て、全面非公開でないものなら年限が来ていれば要審査として公示していくことにしている。
- 公開請求があった時に具体的に審査協議をし、公開できない部分を袋かけかマスキング(黒塗り)して、それ以外を公開している。
- (委員) 公開は原則30年か。
- (事務局) 公文書は、完結後30年間は非公開である。
- (委員) 現在生きている人など、いろんな関係もあると思う。

(事務局) 公開制限の期間は、内規でさらに50年、80年、110年といったレベル分けをしている。個人の財産に関することなどは、50年。重い犯罪や遺伝的な情報のものは今のところ110年としている。個人が特定されないようにする。部分的なマスキングや、このページは出さないなど袋掛けなどである。

公開判断は、館内協議を行ったうえで館長の責任で行う。

(委員) 公文書の収集整理の研修講座の中で、県職員の中でも新規採用職員を対象にするこの研修の意味は大きいと思う。職員一人一人の中に公文書の保存や引継の重要性の意識を最初に植え付けることは、継続してほしい。

(委員) 講座を聞いた感想などは。

(事務局) 昨年した時に、人事課がアンケートを実施した。そのアンケートの情報をもらったので、今年もくれると思う。

(委員) 津山市は、感想を書かせている。正直な感想が出てくる。

(委員) 令和2年度の事業計画で、デジタルアーカイブズの利用数を増加しようとしているのは、ホームページの閲覧数のことか。

(事務局) ホームページ上で閲覧可能とするデータの数を表示した。

(委員) 記録資料に対する関心の高まりが近年盛り上がっているが、全国的にも著名な人が岡山県出身にいて、生の記録資料を読み解きながら発信しているので、その人あたりを岡山県の記録大使にでも任命し、隔年でもいいから来てもらい、アピールというか生の声で語ってもらえるとすごい強みになるのではないか。

(委員) 2年度の企画展の「おかやまの祭り」で祭りの選別は、記録資料館にあるものからするのか、いろいろなところのおかやまの祭りを調べてするのか。

(事務局) 調査をしだすときりがないので、どこにスポットを当てるのかは、早いうちに協議をしていきたい。基本的には当館にあるものをベースに調査をすすめていく。

(委員) 江戸時代から近代まであるので、どれに焦点を当てるのかと疑問に思っていた。

(事務局) あまり雑駁にするとまとまりがないので、焦点を絞りたい。一応、タイトルは仮称にすぎない。

(4)その他について

(事務局) 皆様から何かご意見があればその他のご意見として伺いたい。最後に、配布した資料について説明する。

(委員) 資料をどこまで公開するかについて、先日山陽新報の記事が展示してあり、取材写真に写っているのを見て、よく見ると名前が読める。あまりいい話ではないので、写真を差し替えたことがある。

(事務局) ご配慮に感謝する。

(館長) 配布したものは、アーキビストの職務基準書というもので、国立公文書館が策定した、みんなの意見を集約したもので、アーキビストがどのような仕事をすればよいかを書き留めたものだ。

なぜこのようなことをするかというと、公文書館、記録資料館に勤める職員は基本的には専門職だが、専門職の名称が一般にきちんとしていない。

策定した職務基準書を元に、これができる職員に、アーキビストという名称を付与しようという動きがあり、認証アーキビストという制度を作る段階に入っている。私は、この準備委員会の一員として加わって協議をしている。

全国的にもこういった認証アーキビストを配属してこそ公文書館であると国立公文書館は考えている。

(事務局) 今の委員の任期が、来年2月で切れるので、更新を含めて相談したい。

事務局としては、引き続き委員をお願いしたい。

委員の更新に問題があれば、後ほど連絡をいただきたい。

任期が2年ということで、来年3月から2年間になる。

(委員長) 以上で議事を終了する。